

ニーズ調査

1. 調査の目的

子育て家庭の実態や子育て支援ニーズ、子育てや少子化に関する意識等を把握することにより、今後の子育て支援施策の充実に生かすとともに、「こども計画」策定の基礎資料とするため。

2. 調査の対象

就学前の子どもがいる 3,000 世帯

3. 調査の方法

郵送による配布・web 回答

4. 調査の期間

令和6年1月19日（金）から2月4日（日）

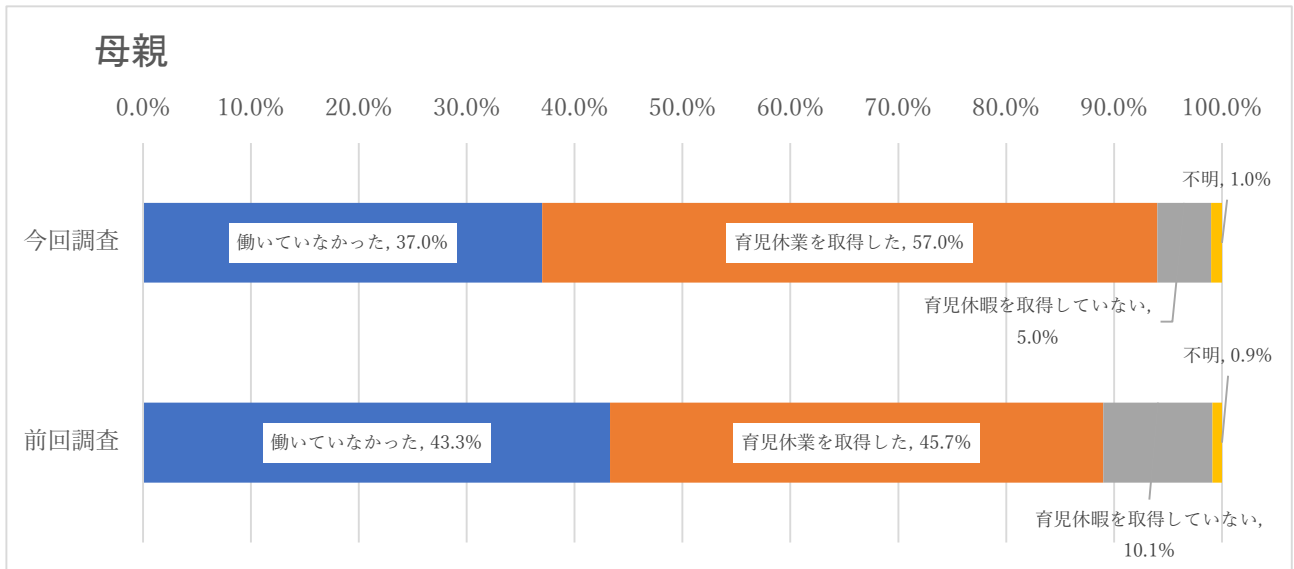
5. 調査に必要な標本数

384.16 件 （総務省統計局HP参照）

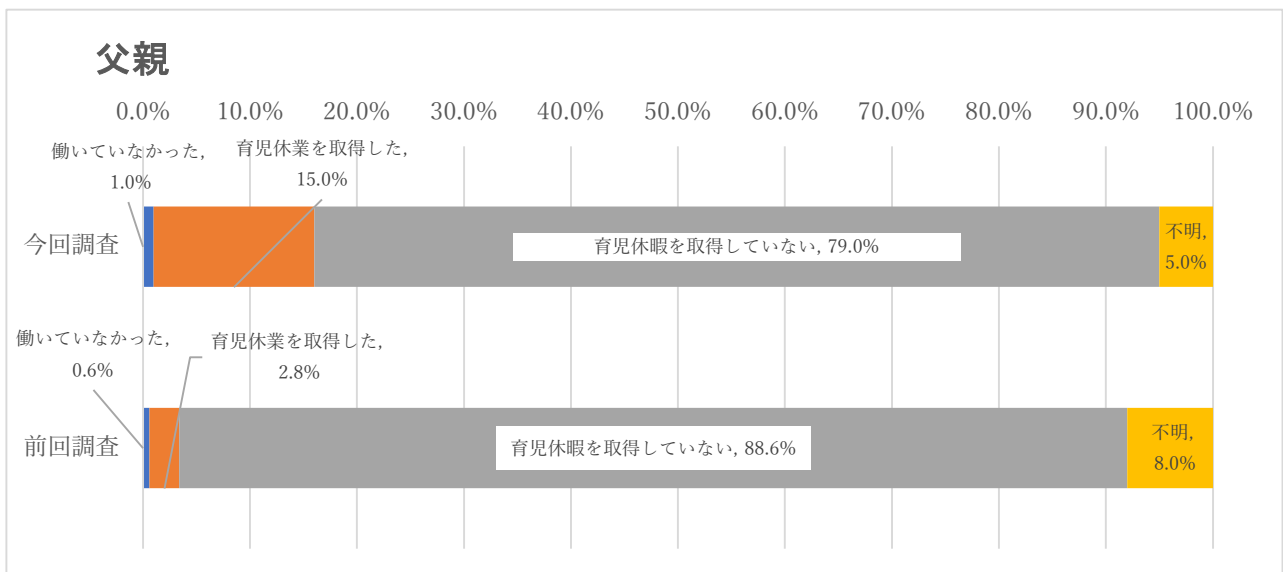
6. 回収の結果

	配布数	回収数	回収率
就学前児童の保護者	3,000 件	1,046 件	34.9%

1. 育児休業の取得状況

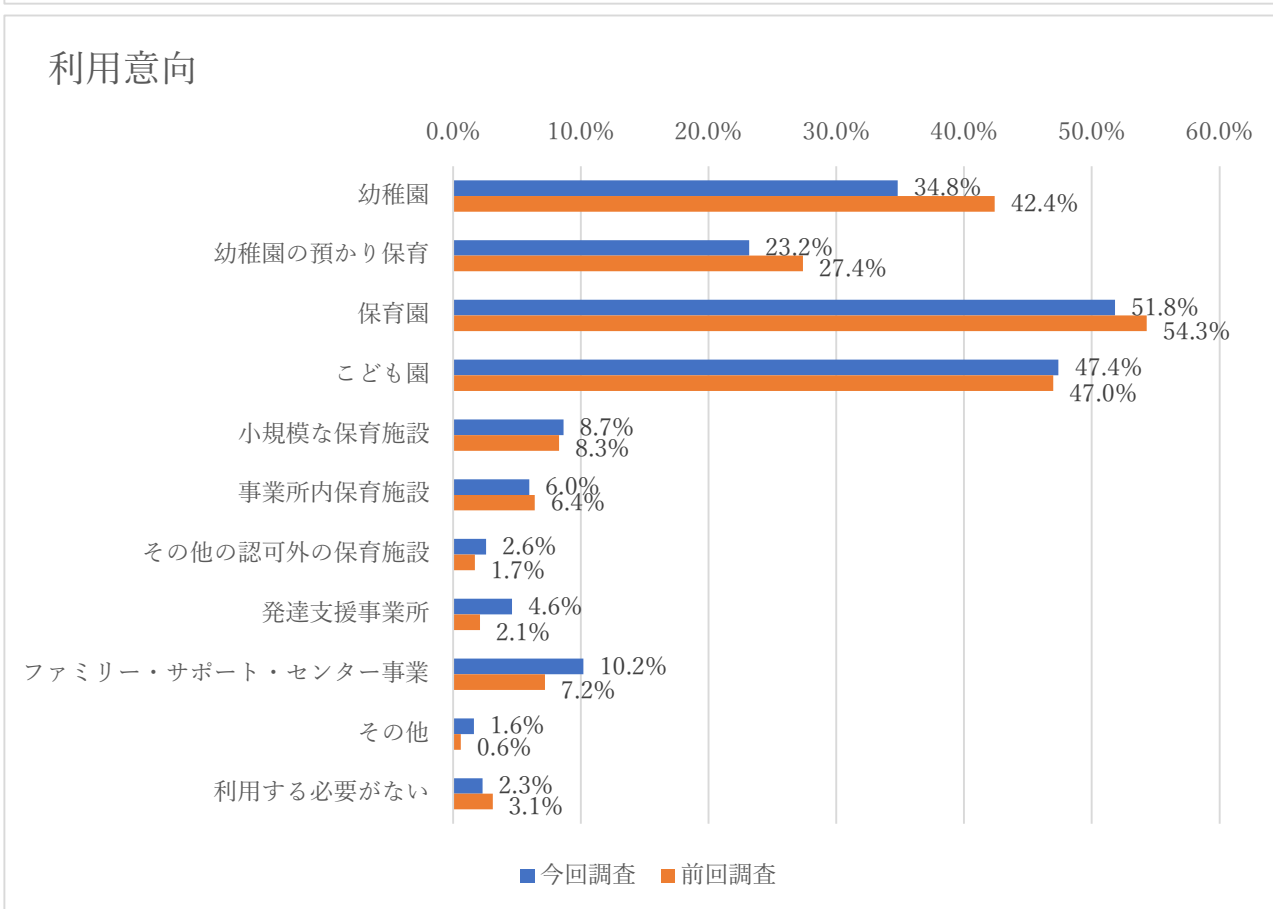
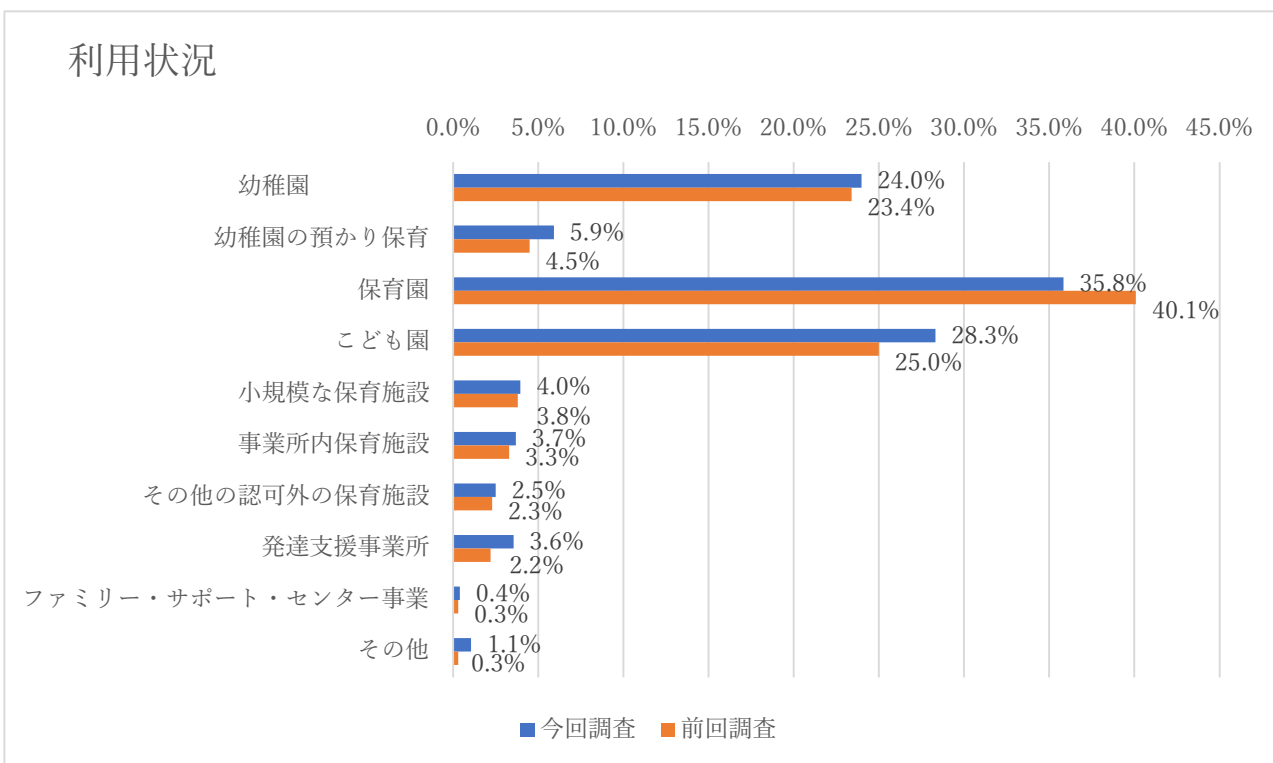


前回の調査と比較して出産前後に働いていない割合が減少（45.7%→57.0%）したが、育児休業を取得した割合が増加（45.7%→57.0%）した。



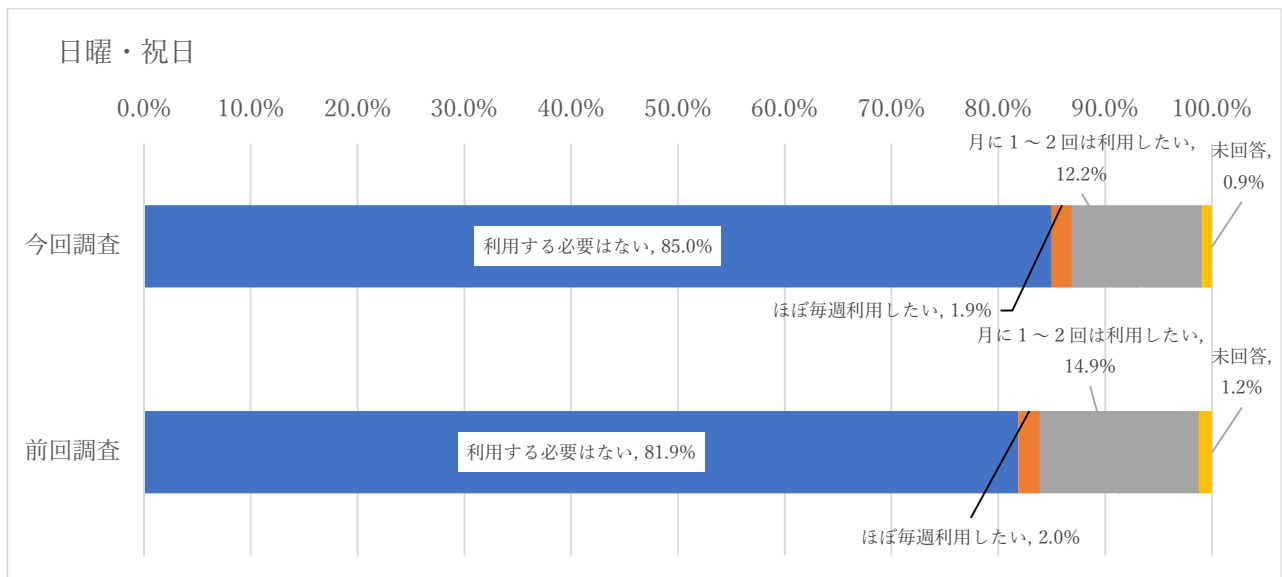
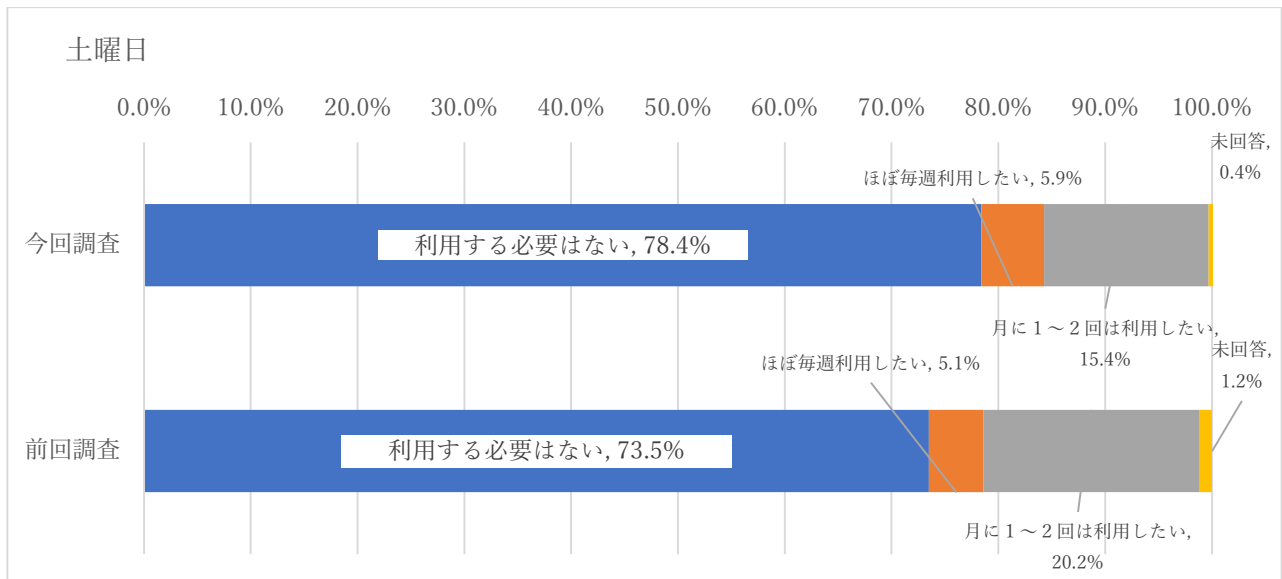
前回の調査と比べて、父親は育児休業を取得した割合が増加（2.8%→15.0%）した。

2. 定期的な教育・保育事業の利用状況と利用意向



こども園・保育園・幼稚園が利用状況と利用意向ともに圧倒的多数となり、幼稚園の預かり保育は利用状況と利用意向との乖離が大きくなった。ファミリー・サポート・センター事業は利用していると回答した方は0.4%に止まったが、利用意向は10.2%となった。

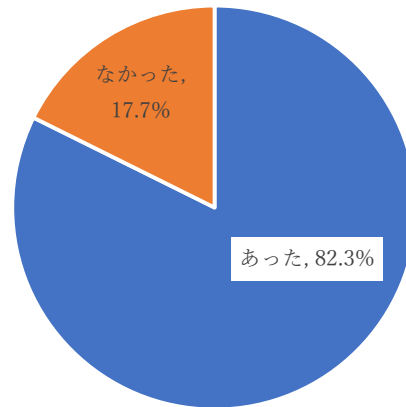
○平日以外の定期的な教育・保育事業の利用意向について



平日以外の定期的な教育・保育事業の利用意向については、「利用する必要はない」と回答した方が多数であり、「月に1~2回は利用したい」とした方も土曜日で15.4%（前回20.2%）、日曜・祝日で12.2%（前回14.9%）と減少しているが、一定のニーズがあることがうかがえる。

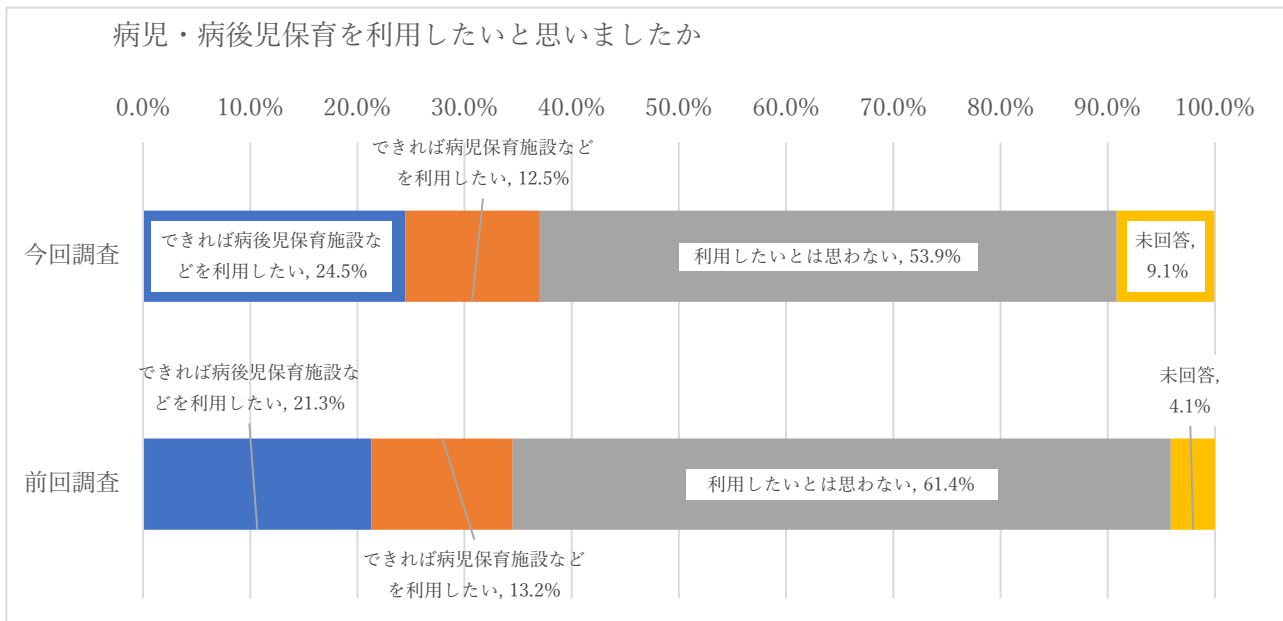
3. 病児・病後児保育や一時預かり保育の状況

病気やケガで幼稚園・保育園などを休まなければならなかったことはありましたか



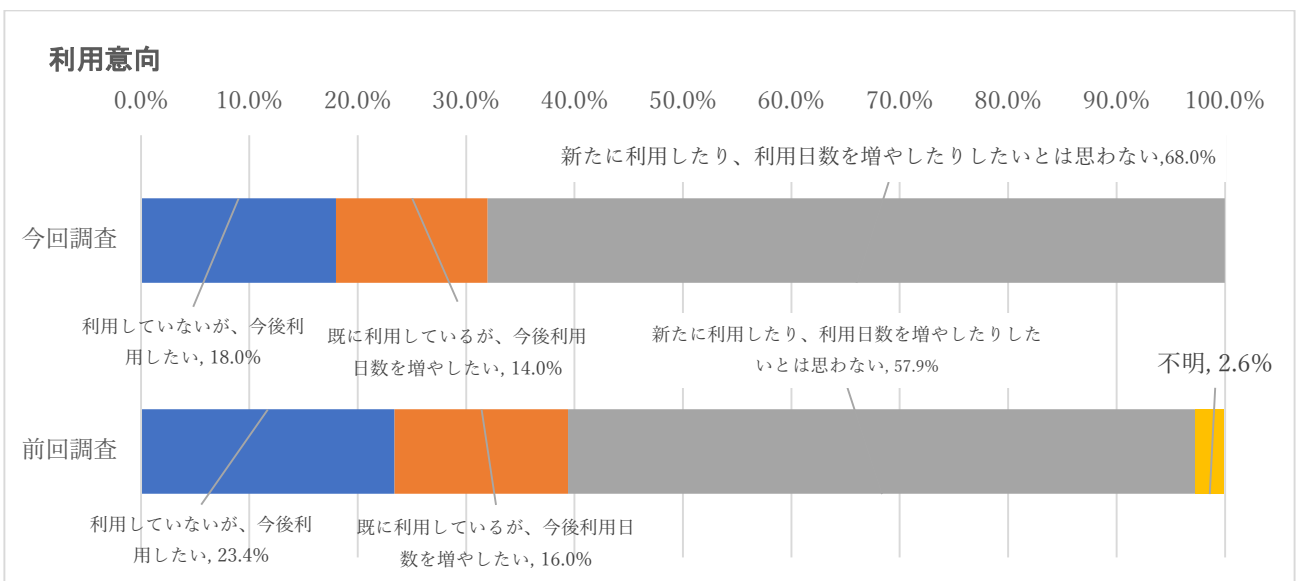
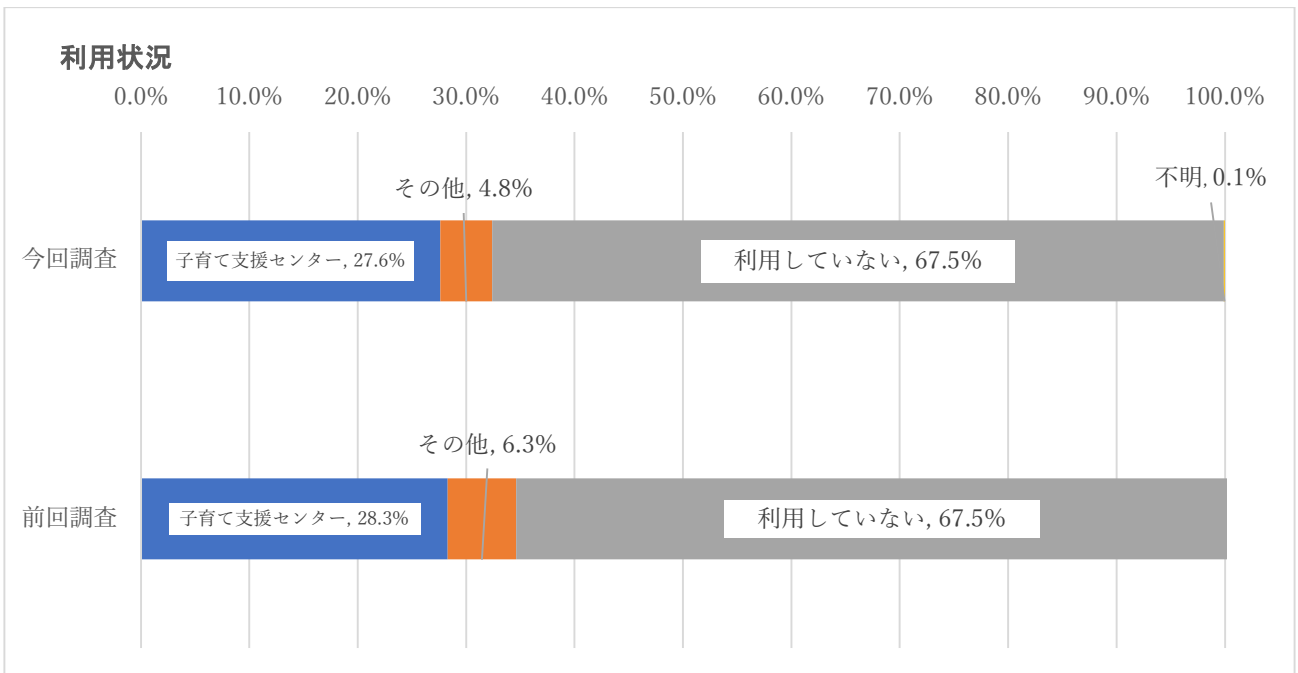
82.3%の方が、この1年間に病気やケガで幼稚園・保育園・学校などを休まなければならなかったと回答している。(前回調査：86.4%)

病児・病後児保育を利用したいと思いましたか



病気やケガで学校を休まなければならないときに「父親もしくは母親が休んだ」と回答した方のうち、「できれば病後児保育施設などを利用したい」と回答した方が24.5%（前回21.3%）、「できれば病児保育施設を利用したい」と回答した方は12.5%（前回13.2%）、約3人に一人が病児保育もしくは病後児保育を利用したいと思っている。

4. 地域子育て支援拠点事業の利用状況と利用意向



既に利用している方の14%（前回：16.0%）が今後利用日数を増やしたいと回答しているほか、現在は利用していない方の18.0%（23.4%）が今後利用したいと回答しており、潜在ニーズが大きいことがうかがえる。

5. 磐田市の実施する各種子育て支援事業の認知度と利用意向

	認知度			利用意向		
	利用したことがある		知らない	利用したい	利用しない	わからない
子育て支援情報誌「わわわ」	46.5% (53.3%)	32.6% (34.0%)	13.6% (11.4%)	24.6% (43.5%)	5.8% (11.3%)	69.6% (27.6%)
いわた子育てアプリ「母子モ」	30.7% (15.7%)	34.1% (31.3%)	29.0% (50.4%)	14.5% (26.3%)	25.5% (24.0%)	60.0% (34.2%)
ひと・ほんの庭にこっと	72.4% (41.4%)	14.6% (38.7%)	8.7% (17.9%)	56.8% (63.0%)	5.4% (6.1%)	37.8% (15.9%)
育児サポーター派遣事業	12.1% (18.3%)	50.6% (48.4%)	30.1% (30.4%)	25.4% (16.0%)	22.4% (34.9%)	52.2% (34.2%)
B Pプログラム	28.3% (25.8%)	20.9% (28.2%)	43.0% (43.4%)	59.1% (25.2%)	40.9% (23.1%)	0% (36.4%)

認知度 (「利用した事がある」と「知っているが利用した事がない」と回答した方は知っているとする。)

ひと・ほんの庭にこっと(80.1%→87%)と子育て支援情報誌「わわわ」(87.3%→79.1%)はともに高い認知度で、いわた子育てアプリ「母子モ」(47%→64.8%)は前回調査より認知度が向上しています。

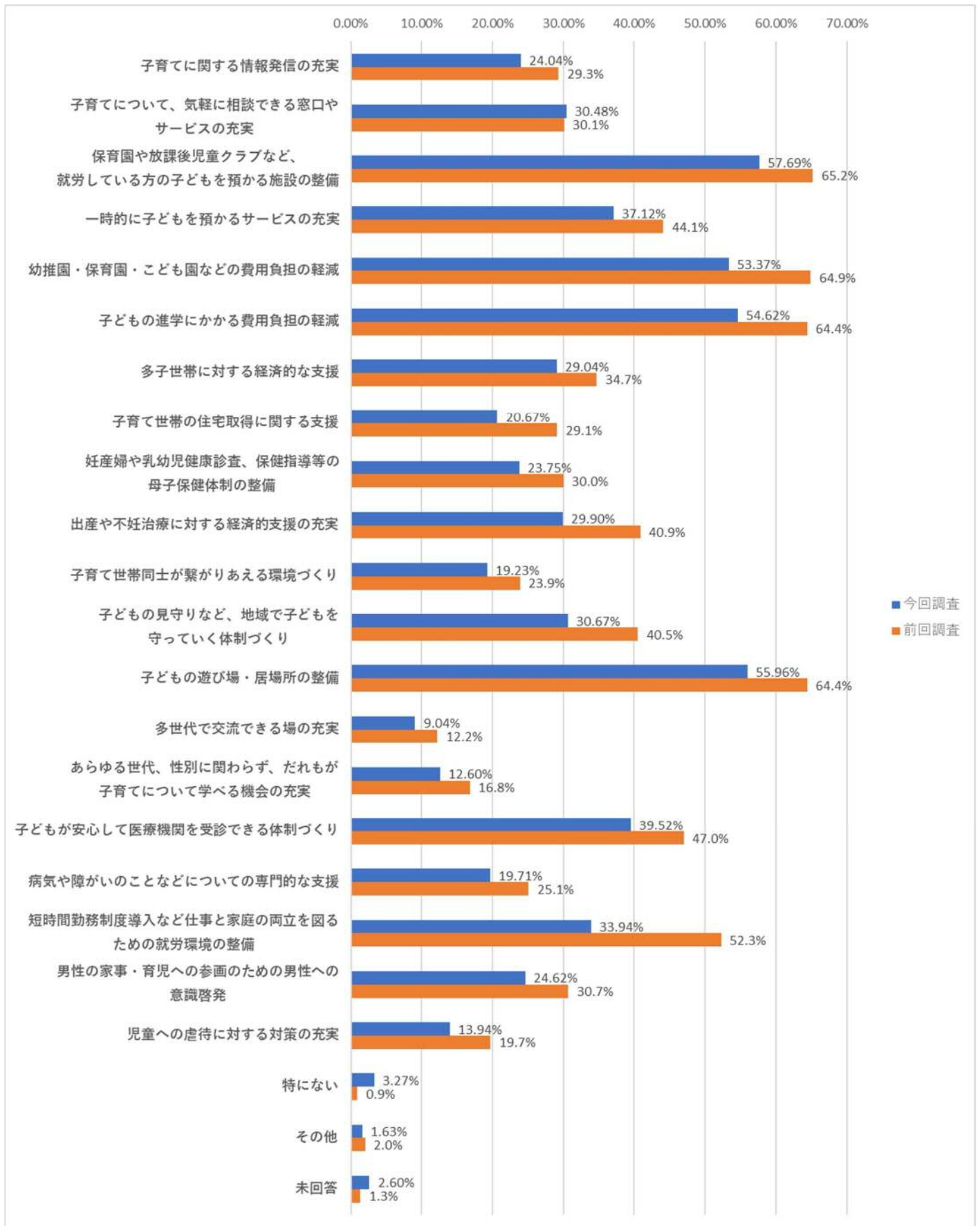
サービス利用の有無

いわた子育てアプリ「母子モ」(15.7%→30.7%)とひと・ほんの庭にこっと(41.4%→72.4%)はともに利用率が増えましたが、育児サポーター派遣事業は利用率が減っています。

利用意向

ひと・ほんの庭にこっととB Pプログラムは利用意向が高水準となっておりますが、いわた子育てアプリ「母子モ」(26.3%→14.5%)と子育て情報誌「わわわ」(43.5%→24.6%)は利用意向が大幅に低下しています。

6. 市に充実を期待する子育て支援施策



保育園や放課後児童クラブなど、就労している方の子どもを預かる施設の整備（57.69%）、幼稚園・保育園・こども園などの費用負担の軽減（53.37%）、子どもの進学にかかる費用負担の軽減（54.62%）、子どもの遊び場・居場所の整備（55.96%）はいずれも5割を超える方が効果が高いと考えており、期待の高さが伺える。